

みんなの えがおのために

氏名： 藪内 真帆

学校名： 京都市立向島秀蓮小中学校

担当教科： 小学校全科

実践教科： 学級活動（国語・道徳・図画工作・音学）

時間数： 4時間

対象学年： 1年生

人数： 85人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：みんなのえがおのために		
・ルワンダの生活の様子について知り、他国の人々や文化に親しむ。 ・国際協力の仕事について知り、日本と外国のつながりを感じ、平和について自分なりの思いを持つ。		
【2】 単元の評価 基準	関心・意欲・態度	他国の人々や文化に親しむことができる。
	思考・判断・表現	ルワンダの遊びや文化について知り、日本と似ているところや違うところについて考えることができる。 国際協力の仕事や、平和についてのおもしろいところを知ることができる。
	知識・理解	ルワンダの生活の様子や、文化について知ることができる。 国際協力の仕事について知ることができる。
【3】 単元設定の理由	本学級の児童は、1年生ということもあり、自国と他国の文化の違いをあまり意識していない。しかし、学級内には外国にルーツをもつ児童も在籍しており、これまでも学級活動等で様々な国の遊びや歌に触れる機会があったので、日本以外の国の文化についても関心をもっている。これまでの学習では、韓国朝鮮の遊びを体験し、「日本と少し似ている」「初めての遊び方」などと様々な感想をもっていた。 日本の文化でさえあまりはっきりとは意識していない1年生であるからこそ、遠く離れた国ルワンダに対しても、違いだけでなく、似ているところを見つける活動を取り入れることで、より親しみをもち他国を身近に感じることができるのではないかと考える。 ルワンダの布や物、学校の様子などを知り、関心を高めた上でルワンダが抱える水の問題についても触れ、1年生なりに自分にできることを考えさせたい。そして、日本が現地の方とともに国際協力の仕事を知ること、児童らの世界を広げたり、働く人に対する思いを持たせたい。 ルワンダやアフリカとの繋がりは、児童らにとって普段意識する機会の少ないものである。しかし、指導者を通じて、本単元で世界の遠い国で活躍する日本人や、自分たちと同じように学校へ通い生活している子どもたちの存在に気付くことで、遠くに誰かのことを思いやり、共に生きていこうとするための土台づくりとなるよう、授業を進めたい。	

【4】展開計画（全4時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	せんせいのなつやすみ ルワンダってどんなくに？ ルワンダの写真やお土産に出会うことを通して、感じたことや疑問に思ったことを話し、関心をもつ。	・ルワンダの国旗や、場所などについて知る。 ・ルワンダの布やかご、服装などを実際に手に取りながらルワンダの文化に親しむ。	写真 ・街並み ・市場 ・食事 ルワンダのお土産 ・布 ・かご ・紙袋 ・民族服 ・コーヒー豆
2 本時	見つけた たくさんのおなじ ルワンダの日本の学校を比べ、同じところや似ているところを見つけることで、ルワンダの人々を身近に感じることができるようにする。	・ルワンダと日本の学校の様子を比べて、似ているところや違うところについて話し合う。 ・ルワンダの教室や、宿題、子どもたちが歌う動画などから、自分たちと似ているところをたくさん見つける。	写真 ・学校 ・教室の様子 ・ルワンダの学校の宿題 ・登下校の様子 動画 ・ルワンダの子どもたちが歌う様子 ルワンダのお土産 ・本
3	みんなのえがおのために 身近に感じたルワンダの水問題について考え、国際協力について知る。	・水くみの仕事をする子どもたちについて知ること、自分たちの学校生活との違いについて考える。 ・自分や周りができることを1年生なりの言葉で話し合う。 ・ルワンダの灌漑工事の様子や、ルワンダで働く日本人の写真を見て、国際協力の仕事について知る。	18Lの水 写真 ・灌漑工事の様子 ・公共用水の様子 タップマネージャーさんの話 絵本 ・トッド・パール「ちきゅう」
4	おきにいりのぬので ルワンダの布で気に入った柄や、組み合わせを考えてコースターを作り、その良さを友達に伝え合う。	・ルワンダの布とビンの蓋で作ったコースターを参考にして、ペットボトルのキャップでオリジナルコースターを作る。 ・作ったものを互いに鑑賞し、それぞれの良さを味わう。	ルワンダの布 日本の布 ペットボトルのキャップ

【5】本時の展開 <学級活動>			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
常学習	ムラホソングを歌おう	・音楽に合わせて、ジェスチャーをつけながらルワンダ語で歌う。	外国語活動教材 「Hi, friends!」より Hello song カラオケ
導入 (10分)	1. 前回見たルワンダの写真を 見返して、気付いたことを 話す。 ○ルワンダって、どんな国でし たか。 ・バナナがたくさんあったよ。 ・カラフルな服を着ていました。	・日本と比べて似ていたか違った かを問うことで、これまでの印象 を整理する。	写真 ・ルワンダの街並み ・食べ物 ルワンダのお土産
展開 みんなとルワンダの子どもたち にているところはあるのかな？			
(25分)	2. ルワンダの学校の写真を見 て、気づいたことを話す。 ○気付いたことを発表しましょ う。 ・制服を着ているな。 ・ランドセルを持っていない。 ・きらきら星を歌っている。 3. 似ているか、違うかを話し 合う。 ○発見したことは、わたしたち と似ていますか。 ・わたしたちもきらきら星を歌 うので、似ています。 ・学校の周りが森の中みたいで、 似ていません。 ・給食のおかずは全然違うけど、 給食当番がいるのが似ていま す。	・写真を見ながら二人組で気づい たことを話すことで、多くの視点 を持てるようにする。 ・全体で気づきを交流する。 ・出た意見を全体で分類できるよ うに、似ているところと違うとこ ろを色分けして板書で整理する。 ・ウムチョムイーザ学園の子も たちの様子と、自分たちの学習の 様子や表情を比べ、同じように学 習に向かっていることや、夢をも っていることに気付くことがで きるようにする。	写真 ・学校、教室の様子 ・ルワンダの宿題 ・登下校の様子 動画 ・ルワンダの子どもた ちが歌う様子 写真 ・学級の子もたちの 様子 ・ルワンダの子どもた ちの夢
まとめ (10分)	4. ふりかえりをする。 ・日本にも給食があるよ。 ・わたしたちも、宿題で字や数字 を練習したから似ているね。	・ルワンダの友達に伝えるような ワークシートにすることで、考え たことや気付いたことをふり返 ることができるようにする。	

【授業実践の様子】



ムラホソングを歌おう！



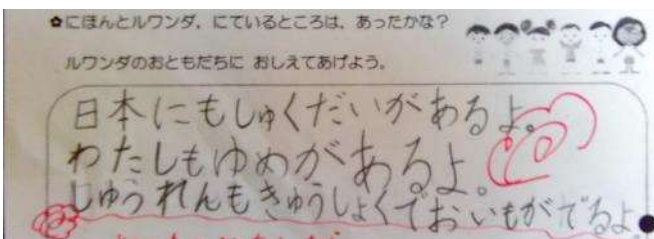
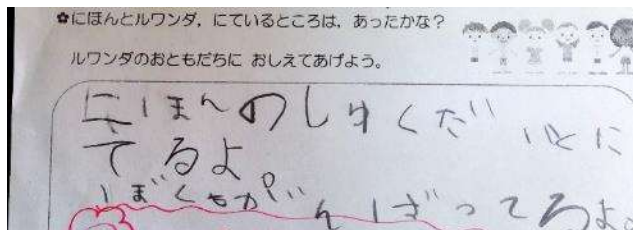
を見つけました！



にているところはあるかな？



見つけた似ていることを、友達に伝えよう！



【6】本時の振り返り

児童らはルワンダに高い関心を寄せ、「早く学校が見たい！！」と期待を膨らませていた。そのため、写真から気づいたことを意欲的に発表したり、友達と伝え合ったりしていた。しかし、日本と似ているところを見つけるよりも、違いを発見することが新鮮で楽しいようで、「似ている」「同じ」を引き出す際に、誘導的になってしまった部分もあった。

ルワンダの子どもたちが「きらきらぼし」を歌う動画を見た際には、自分たちも音楽科の学習で歌ったことを思い出したり、一緒に口ずさんだりしていた。本時の中では、一番子どもたちが自然な形でルワンダを身近に感じる事ができた場面であった。小学校低学年での授業の際は、とにかく歌ったり遊び体験を通じて様々な文化に親しむことが、実態に応じた学習活動であると実感した。

小学1年生ということで、日本とルワンダ、海外との繋がりについて深くは理解していないが、世界には色々な国があることや、そこに暮らす人々がいることを知り、文化の違いに親しんでいた。さらに、ふりかえりを手紙の形式にしたことで、子どもたちはルワンダの子どもたちの存在を意識しながら、本時での気づきをまとめることができた。

【7】単元を通した児童生徒の反応

児童の発言

第1時 せんせいのなつやすみ
ルワンダってどんなくに？

※国語科「なつやすみのことをはなそう」の一部で実施



バナナや～！！

めっちゃいっぱい
あるやん！



ええ～！！
自転車で運んでる！



コーヒーも
有名なんだね。



いいにおいがする！

あたまにかぶるのかな？



第2時 見つけた たくさんのおなじ(本時)

ルワンダ

小さいくに
バナナがたっさん
アフリカの中にある
たのしい

みんなとルワンダの子どもたち
にいてるころは あつたかな？

すこしがう

・かおがくろい・ちやいろい
・かみのけがすくない。つろつろ
・学校のまわりがひろい。
・ランドセルがない。
・上のふくは にてけとど
下はちがう。
・みちが ジャングルみたい。

にいてる

・手をたたきながやうにたいてる。
・きらきらぼし
・せいふくみたい
・すう字がおなじ
・きゅうしよく どうばん

・しゅくだいがある。
・さんすう かたちの学しゅう
・ゆめがある。
・よいしせい
・えがお

ルワンダのおともだちへ(子どもたちのふりかえり)

- ・ルワンダのみなさん、日ほんもしゅくだいがあるよ。たのしいよ。ルワンダのみんなも楽しい？きゅうしよくはおいしい？
- ・しゅくだいがあるよ。さんすうのじゅぎょうもあるよ。よいしせいだよ。
- ・さんすうのかたちの学しゅうがにいてるよ。わたしにもゆめがあるよ。
- ・みんなゆめをもってるし、それぞれゆめをもっているのがにいてるね。
- ・にいてるころもあつたしちがうころもあつたよ、べんきょうがんばってね。

第3時 みんなのえがおのために

※道徳（C 国際理解、国際親善）で実施

学校へむかうとちゅう？
あれれ？
かわったようすが…

水や！



どれくらいの
水のおもさなのかな？
もってみよう！

重たい！！



何か運んでる！

のために なにができるかな。

まい日 子どもが
水くみ 大へん

かんばってねの手がみをかく。
ちがうおうちの人からわけてもらう
学校に水どうをつくら。
車でくみにいく、じてん車

お休みの日にたくさん
くんでおく。

手つだてあげたい。
水を入れるものをかるく。
力をつけてくみにいく。



タップマネージャー ムカルリンダさんのほなし

ルワンダの人といっしょに水をとどける日本人



子どものふりかえり

- ・にほんじんがわざわざルワンダまでいって、しごとをしているのがすごいとおもった。
- ・みんなできょうりよくしてみんなでダムをつくっているのがかっこいいとおもいました。
- ・おうえんしたくなりました。
- ・にほんのひとがいてくれるからあんしんしました。

第4時 おきにいりのぬので

※図画工作科で実施

日本にはない柄だね！



服も派手やなあ

カラフルでかわいい！！
フクロウの柄がおもしろい！



児童の作品

子どものふりかえり

- ・ルワンダはビンだったけど、わたしたちはペットボトルのキャップでコースターができました。
- ・ルワンダの人にも見てもらいたいです。

【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】	
アフリカやルワンダという言葉聞いたことがないような児童も多くいた。本単元を通して、「世界にはたくさんの国があるのだな」「知らない国がまだまだありそうだな」「行ってみたいな」という思いが芽生えてきた。 給食の献立に出てくる外国の料理に興味をもつようになった。「ルワンダ料理は出てこないの?」「食べてみたい」と伝えてくれた。また、道徳でオリンピック・パラリンピックを題材に学習した際、「あなたはどんな人を応援したいですか」という問いに「ルワンダの人」と答える児童が多くいた。本単元を通して、外国を意識したり、知っている国や人のことをおもったりする姿が増えた。	
【途上国・異文化への意識の変容】	
(授業前) 1年生ということもあり、日本の文化や外国の文化について、深く認識していない児童が多かった。また、なんとなく違いはありそうだと感じていながらも、何がどのように日本と違うのか具体的にイメージをもっていなかった。 身近に水がある生活が当たり前で、世界には途上国と呼ばれる国があることも知らない児童が多かった。	
(授業後) 世界には、色々な国があり、自分たちの生活と似ているところもあれば違うところもあるといったことに気づいた。違いも前向きにとらえようとする意識を感じ取ることができた。	

【8】自己評価

1. 苦勞した点	教師が伝えたいことをいかに子どもたちの発達段階に合わせて提示するかという点で苦勞した。1年生には、難しいと分かっているながらも、「どうにかして水の問題や国際協力について知らせたい」「1年生なりに自分たちにできることを考えさせたい」との思いが強くなってしまった。 また、どの教科で単元を設定するのかという点についても悩んだ。各教科の年間時数は決まっているため、どの教科、どの単元と絡めながら授業を組み立てていくのか、学年の先生方とも相談しながら考えた。
2. 改善点	欲張らず、発達段階に応じた内容で授業をする必要がある。長期的な視点で、それぞれの学年に合わせて、ルワンダを通して国際理解教育をしたり、平和について考えたりできるように工夫していきたいと思う。 カリキュラムマネジメントの視点から、45分間全てを使わずとも、各教科で通常に行う授業の中の一要素として、ルワンダの写真や物を紹介することで、より子どもたちが外国の文化や価値観に触れる機会が増える。
3. 成果が出た点	子どもたちにとって、ルワンダという国について初めて知ることによって世界が広がったり、私を通して遠く離れた国でも何かしらの繋がりを感じたりする機会になったのではないと思う。肌の色や、生活の様子の違いを肯定的にとらえ、「行ってみたい」「応援したい」といった発言が子どもたちから出てきたことも成果の一つだといえる。

4. 備考	現地での学びはもちろんだが、帰国後に授業実践をし、それを今年度の参加者と共有できたことでまたさらに学びが深まった。一人ではなく、より多くの人と一緒に継続して、開発教育や国際理解教育に取り組むことで、子どもたちの関心が高まったり、理解が深まったりすると思う。今年度の課題や成果を生かして、また次年度からの実践にも役立てていきたい。
-------	---

添付資料：本時で活用した資料（現地で撮影した写真）

きゅうしょく



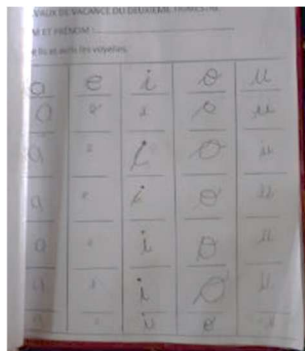
学校までのみち



1ねんせいのきょうしつ



1ねんせいのしゅくだい



参考資料：

- ・ JICA 地球ひろば（2007）『学校に行けない世界の子どもたち』独立行政法人国際協力機構
- ・ JICA 地球ひろば（2010）『世界の水問題』独立行政法人国際協力機構
- ・ JICA 地球ひろば（2018）『学校に行きたい！ 国際協力とわたしたち』独立行政法人国際協力機構
- ・ JICA 地球ひろば（2019）『国際理解教育実践資料集』独立行政法人国際協力機構
- ・ JICA（2019）『どうなってるの？世界と日本 第二版』独立行政法人国際協力機構
- ・ JICA 広報室（2019）『みんなでつくる、よりよい世界』独立行政法人国際協力機構
- ・ トッド・パール（2010）『ちきゅう』解放出版社
- ・ 浜田桂子（2011）『へいわってどんなこと？』童心社
- ・ 中地フキコ（2011）『ルワンダに教育の種を 内戦を生きぬいた女性・マリールイズの物語』

かがわ出版